

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4490600014		
法人名	医療法人 末広		
事業所名	グループホーム 無量寿		
所在地	大分県臼杵市大字末広915番地		
自己評価作成日	令和4年3月31日	評価結果市町村受理日	令和4年5月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/44/index.php?action=kouhyou_pref_search_list_list=true&PrefCd=44
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人第三者評価機構		
所在地	大分市大字羽屋21番1の212 チュリス古国府壱番館 1F		
訪問調査日	令和4年4月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「地域とのふれあいを大切にしながらその人らしくゆったり楽しく笑顔で生活が送れるようお手伝いします」を理念とし、コロナ禍で制限がありますが一人一人を大切にケアしていきます。レクや季節行事など充実させています。
車椅子も入れる畑もあり野菜を収穫したり近隣を散歩することが出来ます。食事は新鮮な食材で栄養バランスを考えとてもおいしいと評判です。母体が病院であり急変時の対応などご家族様には安心・ご満足をいただいています。コロナ対応、感染対策も徹底しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念である“地域とのふれあい・その人らしい笑顔で生活を送る・・・”を実現すべく、管理者を中心として全職員が一致協力するホームです。職員の入れ替わりも少なく、意思疎通の良い関係が築かれ、高齢化や重度化及びコロナ感染症に真摯に向き合い、外出が困難な中、職員の温かい見守りと利用者同士が楽しめる環境を整える等今出来る最大限のケアを工夫して取り組んでいます。隣接の法人病院との強固な連携は、家族の安心と信頼に繋がっています。「食」に力を入れており食事の栄養バランス、新鮮な食材を使い、アットホームな雰囲気です。食事作りもオープンにし、五感を刺激することで食欲増進に繋がっています。排泄の自立支援として、車椅子でオムツ使用の利用者を支援の結果、歩行器を使いトイレで排泄出来たことは、利用者の思いを手助けでき評価出来ます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	いつも確認できるよう掲示している。毎年スタッフ全員で年間目標を考え実践につなげるよう努力している。	理念は、事業所内や・パンフレット・事業所便りに掲載し、家族や来訪者に広くお伝えしています。年度末に、全職員で理念の共有と実践について振り返り、評価するとともに、新しい目標を作成し、利用者の個性を尊重した支援に繋げています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	R3年2月～コロナ禍のため色々なボランティアの方々の交流は出来ていないが、野菜やお花の手入れなど地域の方が手伝ってくれている。	例年であれば、地域交流も法人全体と共に盛んに行われていましたが、コロナ禍により自粛しています。これまで築き上げてきた地域との関係継続と、運営推進会議委員への電話での挨拶や広報誌等を送付し、情報発信を行っています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍の為恒例の秋祭りや夏祭りなどご家族や地域の方々との交流は出来なかったが、すえひろ便り(広報誌)や無量寿便りで情報発信をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍の為会議は中止し書面で報告させていただいている。 ご意見やご要望があればサービス向上に活かしている。	コロナ禍の影響により、運営推進会議の通常開催が中止となっています。会員には、電話で意見を聞き家族アンケートの結果、近況報告・インシデント対策等の資料により書面開催をしています。職員には、議事録を閲覧可能としています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の書類送付等にてご意見を伺い関係性作りに努めている。様々なWEB研修などにもケアマネ2名が参加し、情報収集に努めている。	行政とは感染対策の共有をはじめ、必要時にはメール・FAX・手紙等で連絡を入れて対応策を仰いだり、質問に応じて頂きながら関係継続に努めています。運営推進会議開催においても、行政と相談されることを期待します。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	母体病院の勉強会やケアカンファレンスで話し合い、日頃から職員の意識付けを行い身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	法人と事業所で年2回以上、研修及び勉強会を開催しています。身体拘束廃止委員会での検討等、拘束のないケアを徹底されています。虐待においても、言葉遣い・優しい対応等、職員各自が毎年目標を決め自己研鑽に努めています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月ケアカンファレンスで話し合い新聞の切り抜きなどで情報共有し虐待防止に努めている。言葉遣い、接遇面もスタッフ各自が毎年目標を決め毎月自己評価している。意見や悩みが自由に言える職場作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ケアマネの研修会で様々な資料がありファイルを作っている。(運営推進会議等では包括や行政、弁護士さんから意見をいただいていた。)		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者、事務職員が十分時間をかけて丁寧に説明している。コロナ禍の為に室内やトイレ等はカメラに写し見て頂く。不安や心配なことは気軽に聞いていただき安心していただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的に無量寿便り等で連絡させていただいている。コロナ関係で変更になったこと等すぐに電話連絡し、ご家族からも電話やお手紙などでご意見やご要望を受けている。	利用者の意見等は、日頃の会話の中で把握しており、家族には無量寿便りで利用者の近況報告を写真付きで詳しく報告し、電話連絡も含め意見聴取と結果報告を行っています。	家族から面会を希望する声も多く、行政と相談の上、感染対策を徹底し玄関先での面会を行っています。今後も感染状況を注視し、面会できるよう工夫されることを期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は日頃よりスタッフの意見や考え、悩みなどをよく聞くようにしている。毎月のケアカンファレンスで検討しよりよい運営に反映させている。	管理者は、日頃より職員とのコミュニケーションを大切に、気軽に話せる雰囲気を作り、その中から意見要望を把握し必要なことは会議等で話し合い、運営に反映させています。年1回の健康診断(ストレスチェック含)を実施しており、職員の心身の健康に留意しモチベーションに繋げています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	施設長は日頃の勤務体制や状況を把握され職場環境に配慮してくれている。時間外や各研修会の手当、交通費なども配慮してくれている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は母体病院の研修会に参加したり各自の資格取得への参加も行っている。施設長は積極的に推進し、配慮してくれている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍の為にWEBでの研修会に参加して情報収集し、サービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時はご本人の話を十分に傾聴し少しでも不安が軽減できるよう信頼関係を築けるように努めている。何でも気軽に話せる雰囲気作りにも努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の要望や不安な事、心配な事などを丁寧に聞き何でも相談できる雰囲気作りにも努めている。入居早々のご様子を電話や無量寿便りなどで伝え、安心していただいている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	精神科医である施設長、管理者が相談に応じ主治医、ケアマネ等と連携し本人にとって一番良いサービス、ケアが出来るように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	会話、行事、レク等一緒に楽しんでいる。また各利用者様が出来る役割を手伝っていただき感謝の言葉を忘れずお互いに協力し共同生活感を持ち生活できている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月無量寿便りとご本人の写真を送り電話などでも近況の報告をしている。ケアプランの相談や不安なこと等気軽に話していただけるようにしている。ご本人の事を伺ったり必要な物を買ってきていただいたり一緒に支援を考えていく関係作りをする。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍の為面会制限が多く思うように出来ていないが、年賀状や手紙など、希望時は電話をしたりして関係が途切れないよう努めている。	外出制限や面会も自粛している中、家族の協力で、友人・知人・親類等に、電話や手紙で近況を報告し、関係継続に努めています。法人内で行う音楽療法や陶芸教室の参加により、知人も出来ています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	各利用者様の状況を把握し時には席替えやユニット間の移動を行っている。 スタッフが声掛けし、皆が楽しく関わりあえるよう心地よい生活をしていただけるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された方やご家族様にも声をかけその後の様子を伺ったり何か相談があるご家族には気軽に相談や支援するよう努めている。入院された方には時々訪室し声をかけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人に声掛けをし、出来るだけゆっくり会話できる時間をつくるようにし、本人の気持ち、思い、希望をくみ取るようにしている。毎月のケアカンファレンスで共有し出来るだけ本人の希望に沿うよう努めている。	利用者一人ひとりと、時間をかけて会話することを大切に個性を尊重し、思いや意向の把握に努めています。意思疎通困難な利用者は、表情や動作を推察しながら本人の思いに答えています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご本人、ご家族より聞き取りを行い、主治医やケアマネから情報収集に努めている。日々の生活の中でご本人に伺ったりご家族から情報をもらったりしてスタッフ間で情報共有に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の様子、食事、排泄、睡眠、心理状態、表情や発語、健康状態などを観察している。本人の出来ない事、出来る事を把握しより良いケアにつなげている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月モニタリングをし、ケアカンファレンスにて課題とケアのあり方を話し合い、利用者様やご家族の意向に沿ったケアを常に考え介護計画を作成している。	家族・医師・担当職員等の意見を参考に、本人本位の介護計画を作成しています。毎月のモニタリングやケアカンファレンスでは、評価表をもとに目標内容・到達度・今後の方針等を検討し、サービスの支援に努めており介護計画はケース記録に添付し職員間で共有しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のケア記録に記入し日誌にも気づきなど記入している。申し送りノートもこまめに記入し共有している。毎月担当スタッフがモニタリングしケアカンファレンスで職員全員で意見交換し情報共有し、ケアに繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	音楽療法士による音楽療法や陶芸教室もあり参加している。家族にかわり買い物代行や病院への付き添いも行っている。希望時の面会や電話も出来るだけ希望に沿えるよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍の為外出やボランティアの慰問は出来なかったが、白川病院の音楽療法士さんによる音楽療法や陶芸には参加している。季節行事やレクには全員で参加し、楽しめるよう努力している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族の希望を大切に自由に受診できるよう支援している。かかりつけ医(白川病院)より定期的に検査、往診がある。休日や緊急時も受診が出来る体制にある。	殆どどの利用者が、隣接された白川病院がかかりつけ医となっており、往診や定期的な検査も行われています。発見・気づきを大切にしたケアを心掛け、24時間携帯電話で連絡が取れる医療支援体制が整っています。専門医に関しても、その都度適切な医療を受けられるよう支援しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内に看護師が2人いてスタッフはいつでも異常を報告、相談できる。 母体病院に適切に受診でき、外来看護師との連携も出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は医療連携シートにより情報提供を行っている。入院後も早期退院に向けて情報交換や相談に努めている。 病院師長や職員との連携も密にとるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に看取りに関する指針に同意をいただいている。施設長が医師であるので状況を説明し、ご本人、ご家族の意向を尊重し出来る限りご本人にとってより良い対応を行えるよう支援している。	入所時に、施設として出来る事を説明し利用者・家族の意向を確認しています。利用者の状況の変化に応じてその都度、利用者・家族・担当医師・施設との話し合いを重ね利用者の負担軽減を最優先に考慮し、最適な支援が出来る体制を整えています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修会や勉強会、ケアカンファレンスなどで急変時や事故の時の対応など勉強している。 外来受診の手順や医師への報告も理解している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回防火訓練を行っている。去年は無量寿が出火場所の想定で行い白川病院スタッフの応援をいただき避難訓練が出来た。	定期的に、様々に想定された災害対策に取り組みられています。コロナ禍のため、地域の方の参加がないものの、以前は地域の方との協力体制も整えられていました。状況を考慮しながら、以前のような訓練を予定されています。備蓄等は定期的に確認しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ユマニチュード委員会や接遇・個人情報保護委員会に参加し、やさしい声掛けや対応を心掛けている。スタッフは各自目標に向け毎月自己評価を行っている。	ユマニチュード委員会から毎月発行される新聞を、職員全員で共有し日頃から利用者に寄り添ったケアを心掛けています。職員が、毎月それぞれの目標を持ち自己評価・反省を常として支援に繋げています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で声掛け、コミュニケーションをとり信頼関係を築き、本人が安心して自己決定できるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の体調やその時の気持ちをくみ、本人のペースに合わせて楽しく過ごしていただけるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えや入浴後の衣類を選んだり、定期的にヘアカットしたり本人の希望に沿って支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人にあった食事形態を考えている。好きなメニューを取り入れたり、時々料理レクもしている。テーブル拭きやお盆拭きなども手伝っていただいている。	食事を日頃から楽しんで頂けるよう、準備を手伝って頂き、利用者が出来る事を生かしながら、みんなで毎年らっきょうをつけたり、イベント食を楽しみながら出来るための支援を大切にされています。好みは日頃から、いま食べたい物等を利用者から聞き出し、食事に反映されるよう取り組まれています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様の状態に応じた食事形態を提供し、食事量や水分量にも注意し、医師・看護師・管理栄養士等と連携し、必要な時は補食も行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯ブラシや歯磨き粉などを個々で変えている。自分で行える方には声掛けやセッティングをしている。口腔ケア委員会に参加し毎月検討している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様の状態観察を行い、出来るだけトイレでの排泄支援に努めている。 各人に合わせた習慣を把握し、自尊心に配慮した声掛け、誘導を行っている。	利用者の気持ちや体調に寄り添い、自立に向けた支援に取り組まれています。職員全員で、常に情報を共有し利用者の小さな変化等を大切にされた支援体制を整えています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜やヨーグルトを多く使用している。水分補給や運動も促している。個々に応じて排便コントロールに努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ADLにより介助浴、気泡浴を週2～3回支援している。体調不良時は清拭したり、拒否する時は次の日へ変更したり柔軟に対応している。 楽しい会話と共にゆったりと入浴を楽しんでいただけるよう努めている。	利用者の体調や気分を大切に、気持ち良く入浴して頂ける体制を整えています。入浴時間は利用者の話を聞き、コミュニケーションの時間として大切にされ、日頃のケアや支援に繋げています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の希望や体調により昼寝をしたり自室でくつろいだり自由にさせていただいている。安眠できるよう、衣類やリネンの調整、室温、水分補給など配慮し支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各々の薬情報はカルテにファイルしている。臨時での処方時は皆で情報共有し、状態観察に努めている。与薬チェックシートを使用し、管理している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	コロナ禍で外出や慰問などは出来ないが、毎日各々が好きなことが出来るようレク等工夫している。お盆拭きや洗濯たみ、テーブル拭きも日課として手伝っていただいている。時々畑や玄関先の散歩も行き気分転換している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出はコロナ禍で制限されていたが、天気の良い日は畑まで散歩したり玄関先や近隣の木や花を眺めたり、日向ぼっこをしたりしている。 外出できるようになればドライブレクや買い物レクを行いたいと思っている。	自然に恵まれた環境にあり、気分や体調を考慮し施設の庭や近所などで、外の空気や季節を感じて頂けるよう、外出支援に取り組まれています。コロナ禍の中、全員でのドライブ等は難しいものの出かけられる方は、状況等を考慮し支援に取り組まれています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人やご家族と相談し、希望される方には少額持たせている。コロナが終息したら買い物に行きたいと話をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状や手紙を書いて送っている。書けない方はシールを貼ったり指型や芋版を押したりスタッフが文章を添えたりして支援している。 電話は希望時は自由にできる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節毎のお花を飾ったり、行事やレクの写真を壁に貼ったり、大きな作品を貼ったりしている。廊下には大きなソファがありくつろげる。畳の間もある。台所と居間が対面である。	季節感を大切にされた、共用空間づくりを心掛けています。利用者と職員とで作った、壁面飾り等を工夫されています。感染対策をはじめ、安全・安心に配慮しながら、利用者が居心地よく過ごして頂けるよう、柔軟な対応が出来る体制を整えています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下や居間にソファがあり自由にくつろいだり、話をされている。玄関先の長いすも集いの場になっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には家族の写真や作品を飾ったり、家からの手紙も見えるところに貼ったりしている。希望者はテレビ、ラジオも置いている。ご本人の希望に合わせて支援している。	利用者が、一番安心して・安全に居心地よく過ごして頂けるよう、家族の協力を得ながら、居室づくりに取り組まれています。その都度、利用者の様子を第一に考え、柔軟な対応を心掛けています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室のドアにはわかりやすく目印を付けている。手すりも多く動線を確認し歩行器、車椅子も安全に移動できるよう支援している。		